

令和4年度 都城市立木之川内小学校 学校運営協議会評価報告書

4段階評価 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要す

本年度の重点目標 <1：学力の定着と向上 2：思いやりの心の育成 3：体力の向上 4：地域とともにある学校づくりの推進>

評価項目	評価指標	自己評価コメント	総合評価	学校関係者評価コメント	評価
知	1 授業改善を通じた学力向上	研究主題「読み解き力の育成」を目指し、本年度は各学年部ごとに1回の授業研究を行い、ICTの効果的な活用を含めた授業改善に取り組んだ。児童は学習用パソコンの使い方も慣れ、今後は家庭学習における活用(計画的な持ち帰りの実施)を更に推進していく必要がある。 [分かりやすい授業 保:88.9% 児:94.5% 職:75.0%]	3.4	○ コロナに罹患した際、体調が回復した後の療養期間中、タブレットを使いリモートで授業を受けられるようになる。授業の遅れが回避されるのではないかと。 ○ 全国学テより課題を分析した結果が本校の研究テーマと同様であるということは、学校の取り組むべき課題を教職員がつかんでいたということで、教職員の普段からいかに真摯に子どもに向き合っていたかという証明であり、これからの取組が楽しみである。タブレットの活用で是非、反転学習にも取り組んでいただくことを願いたい。全国学テの結果に惑わされず、自信をもって教職員の皆さんに取り組んでいただきたい。 ○ ICTは今後益々必要とされるので、先生方の研修も充実させてください。 ○ ICTの家庭学習における活用は、保護者へのレクチャーも必要ではないかと考えます。	3.0
	2 木小スタンダードの定着	授業における児童の話や態度、発表等の基本的な学習訓練についてのきまりである「木小スタンダード」を共通理解のもと、共通実践を行ってきた。その結果、落ち着いた学習態度が定着しているが、個別に指導が必要な児童もおり、継続的な指導が必要である。 [進んで学習に取り組んでいる 保:91.7% 児:96.4% 職:83.3%]	3.2	○ 学習訓練は大事なものであるが、あまりにも訓練だけに固執してしまうと、画一的な教育に陥ってしまう。子ども達の個性を大事にし、子どもに対し丁寧な指導、ご支援をお願いしたい。 ○ 授業参観の様子から、子ども達は落ち着いて授業に取り組んでいた。また、少人数制の授業も充実している様子が見られた。 ○ 木小は少人数クラスなので、先生達の目が届きやすいので、このまま続けてください。 ○ 三者ともに評価が高いのは、日頃の先生方の指導が一貫しているからと考えます。	3.2
	3 読書活動の推進	学校の年間目標である4500冊を達成した。図書主任と図書館サポーターによる連携が十分に図られており、昼休み等を活用した様々な図書館イベントに児童も積極的に参加する姿が見られた。読書量は十分な効果が得られているので、今後は、特に高学年における読む本の質の向上を目指し、更なる読書活動の充実を目指したい。 [進んで本を読んでいる 保:47.2% 児:76.8% 職:91.7%]	3.1	○ 読書量も大切ですが、子ども達には一冊一冊をていねいに読み込んで、自分で考える力を付けてもらいたい。大好きな本と出会ってほしいです。 ○ 進んで本を読んでいるという認識が、保護者、児童と職員では割合に差が出ていた。最後までしっかり読んでいるのか。 ○ 読書量は、まさに読解力につながっていくものとする。全体的に読書量は年々増加し、図書主任を中心にとても良い取組をなされている。是非、学力と読書量の分析をお願いしたい。 ○ モチベーションを上げるために、もっと高い目標設定にしてみたいのではないだろうか。 ○ 他の学校の図書室には〇〇先生のお勧めの本として数冊の題名が書いて貼ってありました。いい本にめぐりあえる一つの方法かなと思います。	3.2
徳	4 人権教育・道徳教育を通じた思いやりの心の育成	人権教育・道徳教育については、道徳科の授業を中心として関連する教科等の授業においても計画的な指導を行ってきた結果、友達を思いやる言動が随所に見られるようになってきている。しかし、時には言葉遣いが適切でない場面も見られ、適宜、指導をしてきた。今後も継続的に人権教育や道徳教育の推進を図ってきたい。 [思いやりのある行動 保:97.2% 児:80.3% 職83.3%]	3.2	○ 道徳教育が全人権的な行動に移れるようになることを期待したい。現在の子ども達は思いやりという言葉は理解しているが、実際の行動にどうつながっていくのか、わからないことが多いのが現状である。今後、心と実践が一体化した道徳教育を臨みたい。 ○ LGBTや障がい者への多様性を求められている現代です。子ども達の福祉教育の時間も増やして下さい。 ○ 子どもと大人との関わりが大事である。児童は優しい、思いやりのある子達だと思ふ。 ○ 人権教育は家庭もまき込んだ取組も必要かもしれません。継続が大事だと思います。 ○ 道徳科の授業は、児童の人格形成に大きな影響を与えるものと思ふ。更なる内容充実を望みます。	3.0
	5 対人関係能力の育成	本年度はあいさつを重点的な指導として取り組み、生徒指導主事を中心とした朝のあいさつから始まり、終日にわたり全職員があいさつ指導に取り組んできた。その結果、自発的にあいさつができる児童が増え、校内により良い雰囲気が高まってきた。また、コロナ感染者が軽減しているときは、昼休み等を通して、児童同士あるいは児童と職員のコミュニケーションを深める場も増え、各学級ともより良い人間関係づくりを構築することができた。 [進んであいさつ 保:94.5% 児:91.0%]	3.3	○ 児童の皆さんが子ども園の園児と交流できる機会を設けられるよう期待したい。 ○ 毎朝の登校時、あいさつする子、あいさつしない子4:6くらいです。全体的に声が小さい。元気よくあいさつしましょう。 ○ あいさつがとても良い、進んであいさつをするという子どもが増加していることに先生方の取組に感謝したい。また、保護者や地域の方々の後ろ姿から見るあいさつも良いのではないかなと思う。あいさつ=コミュニケーション=人間関係づくりと一連の行動をもっと推進していただきたい。 ○ 自発的にあいさつができる児童が増えたことはすばらしい。あいさつは何事においても基本なので、今後も継続して取り組んでほしい。 ○ 見守り登校の時に大変よく会話をしてくれます。大人とでも物おせずコミュニケーションが取れる環境づくりをしてあげることが大事だと思います。	3.5
体	6 体力の向上	体育科の授業を中心として、運動会、持久走大会等の行事を通して、児童の体力向上を図ってきた。また、昼休みは積極的に外遊びをする児童も多く、体力向上にも良い影響があると考えられる。今後も体力向上プランをもとに、握力等の劣っている項目の体力を向上させる授業改善を図り、実践していく必要がある。 [進んで運動 職:83.3%]	3.3	○ 体育の授業だけでは体力の向上には追いつけないと思う。今後も引き続き積極的に外遊びをする児童を増やし、日頃から健康的な生活を意識付けして欲しい。 ○ コロナ禍で子ども達に体力を維持することは大変なことであるが、先生達の取組に感謝したい。子ども達の積極的な行動をいろんな場面で臨みたい。 ○ コロナ禍で休み時間の短縮等で子どもから不平不満を聞くことがあった。勉強だけでなく少しゆとりの時間も必要では。 ○ 握力をつけるには、竹登り競争をさせると、昼休みでも練習するようになるのではないだろうか。	3.0
	7 基本的な生活習慣の定着	アンケートによると、「早寝、早起き、朝ごはん」に心掛け、規則正しい生活を送っている児童が多く見受けられる。また、交通のきまりを守って命を大切にしている行動についても意識を高くもっている児童、保護者が多かった。しかし、スマホ等の電子機器の管理については70%を切っており、使用についてのルールづくり等、学校でも随時、指導を行うとともに学校だより、学級通信等を活用し、さらに啓発を図っていく必要がある。 [スマホ等の電子機器の管理 保:69.5%]	3.2	○ 基本的な生活習慣はとても大事なことであるが、なぜルールが必要なのか、根本的な理解を子ども達にどう図っていくのか常に考えてほしいことである。 ○ スマホやパソコン等の使用は日常化して真新しい物ではなくなってきたので、節度をもって使ってほしい。 ○ 今後毎日頃から健康的な生活を意識付けしてほしい。 ○ スマホ等の管理は子ども課題ですね。家庭だけに頼れないところもあるので、学校では地道に啓発していく必要があると思ふ。 ○ 基本的な生活習慣の定着は、家庭で実践して頂くしかない。保護者が問題意識をもつことがスタートだと思います。	3.0

地域とともにある 学校づく	8	家庭や地域との連携の充実	本年度も地域コーディネーターの方を通して、様々な学校支援ボランティアに本校の教育活動を支えていただいた。新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、概ね計画通りに実施することができた。本校の児童の多くが自分の住んでいる地域が好きであることがアンケートの結果で分かった。 〔自分の住んでいる町(地区)が好き 児:83.7%〕	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校支援の会を通して世代間交流などもできれば良いと思います。子どもボランティア(ひまわり隊)への参加も増やしたいです。 ○ 地域とともにある学校作りを推進する中で、地域コーディネーターは大きな柱となる。本校の取組は他の学校の模範となるものであり、管理職の先生方の取組に感謝したい。 ○ 山田地区は子どもボランティアの方々が関わってくださり、ありがたいです。アンケート結果からも十分な連携ができていますと感じます。 ○ 児童の多くが自分の住んでいる地域が好きであることは嬉しいことです。今後も地域の人々とのつながりを積極的につくっていくことが大切だと思います。 	3.5
	9	開かれた学校づくりの推進	学校便りの定期的な発行と学校ホームページを毎日更新することにより、学校の教育活動を保護者や地域に情報発信し、特にホームページは多くの方に閲覧していただくことができた。今後も学校の教育方針や教育活動の情報発信に努め、地域とともにある学校づくりに努めていきたい、 〔分かりやすい情報発信 保:97.1% 職:100%〕	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先生方の努力の積み重ねで(地域の探検、ホームページの更新等)、児童が地域に愛着をもつ割合が増えたことを嬉しく思う。今後も児童にはそうあってほしい。 ○ 校長先生、教頭先生のおかげで、開かれた学校づくりが一層推進されている。学校便りやHPなど積極的に取り組まれていることに感謝を申し上げる。 ○ まち協が毎月発行している「いきいき通信」へもどしどし掲載して下さい。 ○ ホームページの閲覧数が非常に多く、魅力あるものになっているからだろうと考える。 ○ 学校ホームページを閲覧させて頂く度に、学校の様子がよくわかり、多くの人に見てもらいたい内容となっています。今後ともよろしくお願いします。 	3.5